

最終処分場新設を計画

青森グリーン 既存施設北側に

むつ市奥内二又山で産業廃棄物最終処分場を運営する青森グリーン(同市、青好光社長)が、同社敷地内にある既存施設北側に最終処分場の新設を計画していることが10日、同社と県への取材で分かった。同社は現在、環境影響評価(環境アセスメント)の準備を進めており、2017年の設置許可を目指している。同社によると、新設処分場は水処理施設を備えた管理型で、面積は5万5169平方メートル、埋め立て容量は80万6530立方メートル。埋め立て期間は15年間を予定している。同社は

07年に既存施設の操業を開始したが、08年から本県・岩手県境に不法投棄されていた産業廃棄物の受け入れも始めたことなどから、12年に施設を拡張したものの容量が不足していた。県環境影響評価審査会(部会長・杉浦俊弘、北里大学獣医学部

教授)は同日、処分場新設に関して同社が作成した環境影響評価方法書と協議。造成のり面の早期緑化が可能な植物種、時季および緑化方法の検討など3項目の意見書を求めて、県知事に答申した。また、五戸町で廃棄物処理業のウイズウェイストジャパン(古川たまた市、山田耕社長)が計画中の管理型最終処分場建設に関する環

境影響評価方法書についても協議。周辺地域と調和する植物種および緑化方法の検討、環境影響評価項目に人と自然とのふれあい活動の場を確保するなど5項目の意見を答申した。県は今後、答申を踏まえた意見を同社に通知。同社は環境影響評価を実施後、結果を準備書に取りまとめる。(古川路子)